

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4099600118		
法人名	株式会社美咲カンパニー		
事業所名	グループホームかがやき		
所在地	福岡県田川郡川崎町大字川崎112番地 (電 話 0947-72-7950)		
自己評価作成日	令和 7 年 1 月 6 日	評価結果確定日	令和 7 年 3 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

認知症対応型の施設の為、入居者全員が認知症があるのが当然ということをも全職員が十分理解し、正しい知識と個々の生活歴等を理解したうえで一人一人に合ったケアを実施している。また地域社会とのつながりも大切にしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 7 年 1 月 24 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

自然に囲まれた環境にあり、利用者は落ち着いた生活ができる。理念である「利用者の生活での笑顔や自分らしさ」を実現できる環境づくりに努めている。長く働いている職員が多く、理念目標である地域との交流にも力を注いでおり、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう配慮している。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の皆様と明るく楽しく助け合い、今日も1日かがやく」という事業所独自の理念を前経営者から引き継いでいる。理念に沿って地域との関係を構築しており、地域密着型サービスとしての役割を果たしている。	事業所の理念には地域密着の視点があり、毎朝の理念唱和で確認している。理念は玄関や事務室に掲示され、職員は日々の業務で実現に向けて努力している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しているので、広報誌も届いている。職員も地域の人が多く地域との交流を図っている。	事業所は自治会に参加している。高齢化などで活動は少なくなっているが、地域の行事や神幸祭の参加等で近隣との交流に努めている。今後は保育園との交流も予定している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人たちがいつでも相談に来れるような雰囲気づくりをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者様がより良い生活の場としていけるために、施設の現状報告実施している。またご家族、民生委員、有識者、区長等の意見交換や情報交換を行い、サービス向上に努めている。	運営推進会議を2月に1回開催している。利用者家族や地域の民生委員、郵便局長、地域包括支援センター職員が参加している。意見交換や情報交換を行っており、保育園や小学校との交流のきっかけになっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点や相談や気になることがあれば随時、市町村担当者に連絡して回答を得るようにしている。	職員が役所へ訪問や電話をし、介護保険の認定更新手続きや空き室状況報告、生活相談等を行っている。協力関係を築くように取り組んでおり、行事参加のきっかけにもなっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の状態や毎日の生活の流れを理解し、声かけをしながら見守りを行っており、玄関の施錠や身体拘束をしないケアを実践している。身体拘束防止委員会を設置している。	日中は、玄関や居室等の施錠はしていない。身体拘束防止の研修を年2回実施しており常勤職員に関わらず全職員が学んでいる。身体拘束防止委員会を設置して、身体拘束をしないケアについて話し合っている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員、入居者がひとつの家族のようなアットホームな関係を築き、職員一人ひとりが自分の家族のように親しみが持てるような支援を行うように周知徹底している。また高齢者虐待防止法について定期的に研修を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の研修に参加して、施設内の職員に伝達している。入居者一人一人について必要性を協議している。現在補助人がついて入居者様が2名いる。	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての資料やパンフレットを準備しており、利用者家族に成年後見制度等について説明を行っている。現在、2名の利用者に成年後見人がついており、情報共有している。職員研修を実施しており、研修報告書を作成し、アンケートも含めて保管しており、振り返りができるようにしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営に関する理念をご家族様にお話して、不安点のない様に努め、又契約の締結、解除の際は契約書の内容を分かりやすいように説明して納得してもらった上での契約、解除を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者については、いつでも意見や不満、苦情が話せる雰囲気づくりを行っており、ご家族様には直接の苦情設置窓口を設けている。又、運営推進会議等で意見、不満、苦情を聞くようにしている。	利用者家族が運営推進会議に参加して、意見や要望等を聞く機会がある。行事の参加や花見など外出先について、家族の意見を参考にしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月のミーティングで意見交換の場を設け、運営に反映させている。	毎月職員会議で、職員との意見交換が行われ、勤務の希望等を聞いている。事業所の行事などに職員の意見を反映している。その他の運営に関しても職員の意見や提案があり、その都度検討している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の職員一人一人の勤務状態や勤務態度等を正しく把握している。各自が自分の頭で考え行動でき、また働き甲斐のある職場になるようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用は性別や年齢に左右されずに、その人の人間性や介護に対する考え方を重視して採用するようにしている。グループホームの連絡協議会に参加の機会を設け、本人の希望や意見を尊重するようにしている。	採用に関して年齢や性別の差別はない。定年はあるが、その後も就労の延長が可能となっている。研修や資格取得では勤務等に配慮し、働きやすい環境を整えている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月のミーティング等で入居者及び職員の人権について話し合い、意見交換している。定期的に権利擁護について勉強会を行っている。	人権研修として、高齢者や障がい者の尊厳について等の研修を実施している。外国籍の職員から、他国文化を経験することで、視野が広がり人権について考える機会にもなっている。研修記録を保存している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のための勤務的配慮を行っている。内部研修では、職員に処遇を通じてその都度勉強会を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームや施設と交流を持ち、連絡協議会に参加して勉強会等を行い、サービスの質の向上をはかっている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人との面談を行い、気軽に何でも話せる関係作りに努めている。本人の趣味や嗜好を聴き取り支援につながるようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の気持ちに寄り添い、また入居者の状態合わせ、その時に必要なサービスをまず優先するようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時から利用に至るまで、ご家族や入居者にホームに来てもらったりしているんな話をしながら必要な支援の提案を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	様々な理由があり至った経緯を十分に把握し、グループホームの本質を理解していただき入居者と共に支えあえる関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方々の気持ちに寄り添い、安心していただけるよう支援し、グループホームの本質を理解していただき一緒に利用者様を支えていくようにつとめている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親交があった人の住所録などを持ってきていただき、定期的に文通や電話などして連絡をとりあうようにしている。	利用者と家族等から、友人やなじみの場所を聞き取り、職員間で共有している。なじみの人と交流が続けられるよう、訪問や手紙、電話での交流を支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間以外にもお茶の時間を利用して、できるだけ集まってもらい職員も一緒にお茶を飲みながら、皆で会話を楽しむようにしている。それで利用者同士の会話がうまれ、利用者間の会話が増えた。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院などで契約が終了してしまった方でもお見舞いに行き、少しでも不安な気持ちを取り除けるようにしている。ご家族の方には連絡を入れ、今後の相談やケアをし、手助けができる環境をつくり続けている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の意向を聞き、そのことに近づけるように職員が本人に歩み寄るように職員に指導し、入居者が「自分らしい」生活が出来るように支援している。	職員は、さりげなく利用者の思いや要望を確認するように努めている。意思疎通が困難な利用者には、面会時等に家族から情報を得たり、利用者の言動や表情、生活歴から利用者の思いや意向を推し量り、確認している。看取りや終末期の対応について、家族や利用者と適宜、話し合うようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や趣味を把握し、皆で過ごす時間も大事だが、各自の趣味の時間も作り、職員はその手助けをできるようつとめている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態の変化や気になる点があれば職員が各自会議のときに出し合い、皆で解決改善に向かうように話し合い、これからの対応をその時々決めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者が「私らしく、安らかに、活き活きと」暮らしていけるケアプランをご本人中心とし、ご家族、ケア関係者で介護計画を作成している。	利用者や家族の要望、職員や医師の意見を反映しながら、個別的な介護計画を作成している。6か月に1回、モニタリングを実施している。入院等状況変化時は、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。家族への説明も実施し、署名をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りによる記録の情報共有を行い、職員同士で工夫し、実践ができるようにしている。問題点に関しては話し合いを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	車の乗せ降りの介助が難しいご家族の利用者が一時帰宅希望がでた場合など、送り迎え、その他のケアは職員が対応できるようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や区長からの情報提供や地域包括支援センター等や地域住民が手助けしてくださり、いい関係を築くことができている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの医院と連携を取れる関係を築き、普段は定期的に往診していただき、必要時には往診してもらえ関係にある。また何かあればご家族の方からもその医院へ連絡してもらい随時説明を行ってもらっている。	開設当初は、それまでのかかりつけ医を継続して受診していたが、現在は、近くの医院と連携し、全入居者への訪問診療が定着している。専門科の受診にあつては家族が付き添うこともあるが、職員が対応している。受診後は家族へ連絡し、情報の共有化に努めている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師がいるため、常に話し合い健康管理や医療活用の支援につとめている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に利用者が不安にならぬようつとめ、退院時にはカンファレンスを行い、情報交換を確実にし、ホーム側は万全な受け入れ態勢で利用者が安全、安心でいられるように迎えている。また医療連携を行っている訪問看護事業所があり、随時訪問していただいている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については入所時に書面にて意向を確認している。またその時が来たら担当医や地域の関係者や訪問看護と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期のあり方について、事業所の対応方針を明文化し、契約時に説明している。終末期になると、医師から説明をもらい、家族や利用者、職員で、方針や支援について話し合い共有している。状況変化時も同様に、話し合いを重ね方針の共有を行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変についてはあらかじめ予測できるようなことは事前に周知して対応できるようにしている。また事故発生時に備えては定期的に実践力を身に付けられるように勉強会を行っている。感染症委員会や事故防止委員会を設置している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の災害に備えてBCPやマニュアルは作成している。また消防訓練時に引きつづきに避難訓練を実施している。	年2回避難訓練と消防訓練を実施している。その内1回は、夜間の想定で実施している。避難訓練は、地域住民に参加の呼びかけを行っているが、参加はまだない。事業所敷地内倉庫に、非常用食品・飲料水・備品を約3日分備えている。スプリンクラー対応の貯留水タンクが敷地内に設置されている。	
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人記録等の個人情報保護は鍵のかかる書棚に入れている。プライバシーに関することは本人の前では話さないよう徹底している。	排泄介助時は、ドアを閉め、声かけをさりげなく行う等プライバシーの配慮をしながら、介助を行っている。利用者の個人情報は、他利用者や外来者の前では、話さないように徹底している。全体会議や必要時には、経営者や管理者がプライバシー保護について話す機会を設けている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者や家族に不安を与えないように説明を行い、出来るだけ自己決定できるように声がけしながら支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なにをするにも必ず一度入居者の意向を聞き、そのことに近づけるように職員が入居者に歩み寄るように指導し、「自分らしい生活」が出来るよう支援している。入居者様一人ひとりの生活パターンに合わせ一日が楽しく過ごせるように心掛けながら支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の希望に応じて職員がおしゃれの支援をしている。美容室へは本人又は家族の希望の店に連れて行くこともある。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器等の準備や片付けは、なるべく一緒に行っている。入居者様に食べたい物等を聞いて献立を考えている。	食事は、献立から食材の買い出しや調理まで、職員で行っている。地域から野菜の差し入れが度々ある。献立では、普段から入居者の声を聞き、取り入れている。利用者と準備や後片づけ、食器洗い等を一緒に行っている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりの食べる量、水分摂取量、栄養バランスは毎日の記録に残して必要量の確保ができるようにしている。喉の渇きを本人が訴える前にこまめに水分補給をしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、義歯の洗浄等の口腔ケアを行い、一人ひとりの口腔状態に応じた支援をしている。又必要時には訪問歯科を利用している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合った排泄方法を見極め、最初からトイレでの排泄は出来ないと決めてしまわずに、オムツの使用を減らし、可能な限りトイレで用を足す支援や気持ちよく排泄するための工夫を行っています。	すべての職員が入居者の排せつリズムを把握しており、定期的な声かけやさりげない誘導を行っている。過度の介助にならないよう、入居者の能力を最大限生かす支援を心がけている。パット類の使用では、自立に向けた支援として、減らす意識をもち、使用する時間帯やパットの種類を常時見直している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の人には繊維質の多いものの食事に取り入れたりしている。又職員と一緒に散歩に出かけたり、ホーム内での運動を行うようにしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日等は一応決めているが、本人の希望やタイミング及び健康状態に応じて基本的にはいつでも入浴できるように支援している。	週3回で利用者の入浴予定計画を立てている。希望に添えるよう、毎日入浴できる準備を行っている。拒否のある利用者には、時間をおいて声かけをしたり、曜日を変えたり柔軟な対応をしている。浴室や脱衣場を温めて、入浴しやすい環境をつくる等工夫している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し布団干し等を行い、気持ちよく眠れるように支援している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容については、ファイルに閉じてひと目で内容が分るようにしており、職員は誰がどんな薬を服薬しているか把握するように徹底してい		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事計画を作成して、入居者様に見ていただき生活目標やメリハリをつくようにしている。趣味特技を生かした楽しみを持っていただく。行事計画以外にも定期的に買物やドライブ、ハイキングに行くようにしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買物、また市民センターや公民館での地域の方々との交流会を行い、本人の希望に沿って買いもの等に出かけています。	コロナ禍前と同様に、春と秋には花見や紅葉を楽しんでいる。その際は、外食や買物などを実施している。近くのお店や近所への散歩は、利用者の歩行力が低下しており、困難な状況であるため、天気の良い日には、庭先で日光浴に誘う等で工夫している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に職員と出かけたりして自分の欲しいものが買えるように、お金の認識ができる方には支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人が直接、普段来られない親戚の方と話せるようにとりつぎを行っている。入居者一人ひとりの希望に合わせていろいろなやり取りができるように支援している。また遠方の家族に入居者に手紙を書いてもらって送付しているのでとても喜ばれている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はテレビや食器の音に配慮して、その季節の草花を居室や談話室等に置いて居心地良く過ごせるように工夫している。	共用の食堂兼居間の壁には、季節に合わせて、利用者と職員で作成した塗り絵や貼り絵、折り紙等を毎月創作し飾っている。クリスマスでは大きなツリーを飾っている。テレビ等の音量、採光等適切に調整している。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室のソファで気のあった物同士で過ごされたりしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居者が寛げて、なおかつ穏やかに過ごせるように、なじみの家具や小物を自宅から持参していただくようになっている。また昔の家族写真等を貼っている。	使い慣れた筆筒など持参できるよう配慮している。家族写真や好きなぬいぐるみ等、家族の意向も取り入れ、入居者の居心地を第一に考え、居室環境を整えている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人での歩行が可能な方はなるべく一人で歩くようにしてもらっているが、その時も転倒が考えられるため必ず見守りは行うようにしている。また歩行器を使用している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
			○	③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない